

手動点火による操作方法

1 電源ランプが点灯していることを確認します。

- (1) 燃焼ポット※1の奥から全体を付属のスクレーパーで、クリンカを削り取ってください。
- (2) 燃焼ポットの先端高さまでペレット燃料を満たします。燃焼ポットへ直接燃料を入れても構いませんが、各扉を閉め**燃料供給調整**ダイヤルをテストの位置に合わせ燃料供給機を稼働させることもできます。**温風ファン、燃焼・排気ファン、燃料供給機**が稼働しインジケータランプが点灯します。(テストの位置で燃料供給機が稼働するのは1分間です。必要に応じて数度行います。)
- (3) ペレット全体にジェル状着火剤を混ぜ合わせます。
- (4) **燃料供給調整**※2ダイヤルを「4」の位置に戻します。

点火時の煙が少なく、万が一の点火器故障時でも使用できます。



テストモード



(4)標準的燃料供給量

クリンカとは…木質燃料などは化石燃料と異なり精製されていないため、燃焼灰が発生します。この灰が高温燃焼で溶け固まった物です。特に給気口付近は高温となるためクリンカが生成され易くなります。

2 送風量・設定切替ダイヤルが「切」になっていることを確認します。



3 自動点火装置のスイッチを「OFF」にします。

※電源スイッチを入れた後、自動点火装置を稼働後「OFF」から「ON」へ切り替えることで運転方法が変化します。

- 室温設定運転／自動点火スイッチ「OFF」
設定温度に達すると、セーブ運転に切り替わります。
- 室温設定運転／自動点火スイッチ「ON」
設定温度を境に自動で消火⇄再点火を行います。
- 本体出力運転／自動点火スイッチ「OFF」
出力制御ダイヤル「5」以下でサイレントモード運転。



4 出力制御ダイヤルを、お好みの火力数値、又は温度に合わせます。

室温設定

10〜34℃にダイヤル位置を合わせることでお部屋の温度を設定温度で保ちます。(注意:室温が設定温度より高い場合、点火しません。)

本体出力

1(最小)〜7(最大)の数値は火力調整です。常に一定の出力で継続燃焼します。(炎の大きさは放熱効率によって変化します。)

サイレントモード

自動点火装置をOFF、送風量・設定切替ダイヤルを本体出力側に回し、ダイヤルを「5」以下にすると温風を止めて輻射熱だけでお部屋を暖めます。(本体温度が高い状態では、温風ファンは稼働します。)



5 送風量・設定切替ダイヤルを、本体出力・室温どちらかに回します。

- 診断、燃焼・排気ファンのインジケータランプが点灯し点火準備状態となります。
- 点火装置に不具合が無い場合、室温を④で合わせた設定温度で保ちたいときは**室温**側へ回し、起動後に自動点火装置を「ON」に切り替えます。お好みの火力で継続燃焼させる場合は、**本体出力**側へ回します。
- ダイヤルは電源スイッチと、温風ファンの調整装置です。ダイヤルを一杯に回すと点火後、送風量は最大になり「切」方向に回すと弱くなります。



6 燃焼ポットに満たされたペレット燃料に、点火用ライターなどで着火してください。

- 点火後すぐに扉を閉めると火が消えてしまう場合、その場を離れず扉を少し開けた状態でペレット全体に火が回ってから扉を閉めてください。
- 本体の温度上昇と共に、温風ファンも稼働し**温風ファン、燃料供給機**のインジケータランプが点灯します。



ペレット燃料全体にジェル状着火剤をなじませます。

注 意

●ペレットストーブで着火剤を使用する場合は、ストーブが冷えているときに限ります。着火剤は、ガソリン、シンナー、灯油など揮発性の液体は使用できません。●燃料タンクの蓋、正面扉がしっかり閉まっていなくて運転が開始しなかったり、すぐに消火したりします。●感震装置が働くと、ビビビビッ!と警報音が鳴り燃料供給をストップします。本体右側面下部にあるリセットレバーを持ち上げると解除できます。●診断ランプの点滅は何らかの異常を知らせています。取扱説明書を確認し、改善できない場合は、販売店にご相談ください。

お手入れと燃料供給調整

※1 燃焼ポット表面には、木質燃料特有なクリンカ(焼塊)が付着します。ポットの給気口や表面を覆うと着火不良や不完全燃焼の原因となるため、こまめなお手入れを行うことにより故障を未然に防ぎます。付属のスクレーパーでポットの表面、六角レンチで給気口を掃除してください。

※2 燃料供給調整ダイヤルは、市販する殆どの燃料で設定は「4」となりますが、燃えの早い燃料ほど数値を上げ、逆に燃えの遅い燃料は数値を下げて使用します。



燃焼ポット表面の清掃
スクレーパーによるクリンカの除去



燃焼ポット給気口の清掃



電源を入れたら、診断、燃焼・排気ファンのインジケータランプが点灯します。

HARMAN[®]
BUILT TO A STANDARD, NOT A PRICE

ペレットストーブ 操作マニュアル

PELLET STOVE OPERATING MANUAL

P43・P68



自動点火による操作方法

1 電源ランプが点灯していることを確認します。

- (1) 燃焼ポット※1の奥から全体を付属のスクレーパーで、クリンカを削り取ってください。
- (2) **燃料供給調整**※2ダイヤルを「4」の位置に合わせます。



(4)標準的燃料供給量

クリンカとは・・・木質燃料などは化石燃料と異なり精製されていないため、燃焼灰が発生します。この灰が高温燃焼で溶け固まった物です。特に給気口付近は高温となるためクリンカが生成され易くなります。

2 送風量・設定切替ダイヤルが「切」になっていることを確認します。



3 自動点火装置のスイッチを「ON」にします。

(常に「ON」になっていても問題ありません)

※電源スイッチを入れた後、自動点火装置を「ON」から「OFF」へ切り替えることで運転方法が変化します。

- 室温設定運転／自動点火スイッチ「ON」
設定温度を境に自動で消火⇄再点火を行います。
- 室温設定運転／自動点火スイッチ「OFF」
設定温度に達すると、セーブ運転に切り替わります。
- 本体出力運転／自動点火スイッチ「OFF」
出力制御ダイヤル「5」以下でサイレントモード運転。



4 出力制御ダイヤルを、お好みの火力数値、又は温度に合わせます。

室温設定

10～34℃にダイヤル位置を合わせることでお部屋の温度を設定温度で保ちます。(注意:室温が設定温度より高い場合、点火しません。)

本体出力

1(最小)～7(最大)の数値は火力調整です。常に一定の出力で継続燃焼します。(炎の大きさは放熱効率によって変化します。)

サイレントモード

自動点火装置をOFF、送風量・設定切替ダイヤルを本体出力側に回し、ダイヤルを「5」以下にすると温風を止めて輻射熱だけでお部屋を暖めます。(本体温度が高い状態では、温風ファンは稼働します。)



5 送風量・設定切替ダイヤルを本体出力・室温どちらかに回します。

- 診断、自動点火装置、燃焼供給機、燃焼・排気ファンのインジケータランプが点灯し運転が開始されます。本体の温度上昇とともに温風ファンも稼働し**温風ファン**のインジケータランプが点灯します。
- 室温を④で合わせた設定温度で保ちたいときは**室温側**へ回し、自動点火装置を「ON」にしておきます。お好みの火力で継続燃焼させる場合は、**本体出力側**へ回します。
- ダイヤルは電源スイッチと、温風ファンの調整装置です。ダイヤルを一杯に回すと点火後、送風量は最大になり「切」方向に回すと弱くなります。



注 意

●燃料タンクの蓋、正面扉がしっかり閉まっていないと運転が開始しなかったり、すぐに消火したりします。●燃料供給調整ダイヤルをテストの位置に合わせ何度も燃料供給を行うと、点火時に煙が多く発生し点火が遅くなります。●感震装置が働くと、ビビビビビ!!と警報音が鳴り燃料供給をストップします。本体右側面下部にあるリセットレバーを持ち上げると解除できます。●診断ランプの点滅は何らかの異常を知らせています。取扱説明書を確認し改善できない場合は販売店にご相談ください。

お手入れと燃料供給調整

※1 燃焼ポット表面には、木質燃料特有なクリンカ(焼塊)が付着します。ポットの給気口や表面を覆うと点火不良や不完全燃焼の原因となるため、こまめなお手入れを行うことにより故障を未然に防ぎます。付属のスクレーパーでポットの表面、六角レンチで給気口を掃除してください。

※2 燃料供給調整ダイヤルは、市販する殆どの燃料で設定は「4」となりますが、燃えの早い燃料ほど数値を上げ、燃えの遅い燃料は数値を下げて使用します。



燃焼ポット表面の清掃
スクレーパーによるクリンカの除去



燃焼ポット給気口の清掃



感震装置リセットレバー
解除方法:レバーを上を持ち上げます。



メンテナンス周期表

※燃焼室内の清掃はテストモードを利用すると室内への灰の飛散を抑えることができます。
ファンなど回転部の清掃はコンセントを抜いて作業してください。

周期／使用量	清掃(点検)箇所	使用ツール	作業方法／注意事項
毎日 50kg	燃焼ポットの清掃	付属のスクレーパー	力強くスクレーパーでクリンカをこそぎ取ります。
毎週 100kg	灰受けバケツ	バケツの灰を捨てます。	灰は密閉できる不燃性の容器に入れ保管後完全に火の気が無い事を確認し処理してください。
	燃焼室の灰の除去	専用掃除機推奨	
	フロントガラスの清掃	ストーブ用ガラスクリーナー、ウエス	ガラスが冷えてから作業してください。
毎月 500kg	室内温風ファン	刷毛、掃除機	塗装用刷毛などと掃除機を併用してください。
	本体排気経路、熱交換器	刷毛、ブラシ	排気口にあるESPセンサーを損傷しないように注意してください。
	ホッパー／ホッパーガスカート	刷毛、掃除機	ホッパーに溜った粉は底に履き込み、蓋とガスカートに粉などが挟まらないよう清掃してください。
	燃焼ポットの給気口	付属の六角レンチ	給気口に六角レンチを挿入します。
一年 1,000kg	燃焼室、熱交換器、給排気経路、燃焼排気ファン、フィーダー内部、室内温風ファン、ESPセンサー	付属のスクレーパー、六角レンチ専用掃除機、刷毛、ブラシ	コンセントを抜いて各機器を損傷させないよう作業してください。
	ドアガスカート	専用ガスカート、耐熱シリコンシーラー	ほつれ、破れ、目に見える損傷がある場合は交換してください。
	煙突	ペレット煙突専用ブラシ	3インチ煙突専用ブラシで清掃してください。

メンテナンス周期表は、ホワイトペレットと呼ばれる灰分の少ないペレット燃料を基準としています。ただし、保存環境が悪く湿気を吸ったものや、バークを含む灰分の多い燃料を焚いた場合は、周期を短くする必要もあります。煙突の配管仕様や微小燃焼を頻繁に行うような使用方法でも、周期を短くする必要があります。燃焼室内部の部品や外装部品を外す作業については、取り付け業者様に確認の上作業を行ってください。**ハーマンペレットストーブは、燃焼ポットをスクレーパーでこまめに掃除することで多くのトラブルを防ぐことができます。スクレーパーでのお掃除は、予め火力を弱めた状態であれば燃焼中に行うことも可能です。ただしキッチンの換気扇を使用するなど室内が強い負圧環境下にある場合は、煙が室内に出る可能性がありますので注意が必要です。**



帯広本社
〒080-0010 北海道帯広市大通南28丁目4
TEL 0155-24-6085 FAX 0155-26-0506
帯広ショールーム
営業時間：10:00 - 17:00 定休：水

埼玉・久喜ショールーム
〒349-1125 埼玉県久喜市高柳2436
TEL 0480-31-6959 FAX 0480-31-8361
営業時間：10:00 - 17:00 定休：土 / 日 / 祝日

大阪ショールーム
〒559-0034
大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル10M棟9F
営業時間：10:00 - 18:00 定休：水

神戸ショールーム
〒650-0044
兵庫県神戸市中央区東川崎町1-2-2
HDC神戸3F コンフォートハウスプラザ内
営業時間：10:00 - 17:30
定休：水（祝日の場合は営業、翌日休館）

東京事業所
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-4 安部徳ビル3F
TEL 03-3525-4586 FAX 03-3525-4587

0120-700-027

E-mail：info@dutchwest.co.jp



ダッチウエストジャパン公式ホームページ
https://www.dutchwest.co.jp

※大阪ショールーム・神戸ショールームに弊社スタッフは常駐しておりません。商品に関するお問い合わせは本社ショールームまたは東京事業所までご連絡下さい。

●このカタログの記載内容は、2020年10月現在のものです。●製品改良のため、価格・仕様の一部を変更することがあります。
●商品の色調は、印刷の関係上、実物とは異なる場合があります。

お問い合わせ